

相楽東部

子育て・教育

「互いの顔が見えるまち」  
なごらどはの子育て

小鳥のさえずり。風が葉を揺らす音。耳を澄ますと、そんな心地よい自然の音がずっと聞こえてきます。ここは、標高500mの高原、南山城村の童仙房。10年ほど前にこの地へ移住してきた坂内謙太郎さん。妻の里恵さん、3人のお子さんと暮らしています。

現在、坂内さんご夫婦は、ご自身や近隣の畑で収穫した無農薬の野菜・ハーブで加工品を製造、直売所などで販売されています。また、数年前から、南山城村のふるさと納税返礼品や保育園給食でも採用されています。

そんな坂内さんご夫婦ですが、元々農業の経験はなく、童仙房での暮らしも「手探り状態」。多くの失敗も重ね、「良い野菜づくりには良い土づくりが欠かせない」との考えにたどり着き、現在は和束町での生ごみの堆肥化にも取り組んでおられます。

「自分たちが納得して作りたい野菜を作り、地域のお店などに提供していきたい」との目標に向かって試行錯誤はこれからも続きます。

3人の子育て真っ最中の坂内さんの1日は、高校1年生になる長女を駅まで送迎することから始まります。畑仕事に家事のほか、加工品の製造・販売・発送。地域の方から依頼されたデザインの仕事や住民活動、パートもされています。

その中での子育ては、やはりこの地ならではの苦労もあり、「特に高校生になると電車通学が始まり、毎日の駅までの送迎が大変」とも。

一方、少ない児童数で過ごす小中学校などの教